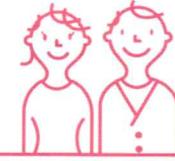


# 「慰安婦」問題とジェンダー平等ニュース



第12号 2013年4月25日発行

2010年7月15日創刊



発行:「慰安婦」問題とジェンダー平等ゼミナール 〒344-0012 春日部市六軒町77 吉川氣付

電話&FAX 048-738-1780

ブログ <http://ianhu.cocolog-nifty.com>

## 「慰安婦」問題とジェンダー平等ゼミナール 第1回総会開催

桜が満開の3月24日(日)、文京区シビックセンターのシルバーホールで、初の総会が開催されました。52名の参加者(内4割が男性)。総会後の懇親会には19名が参加。

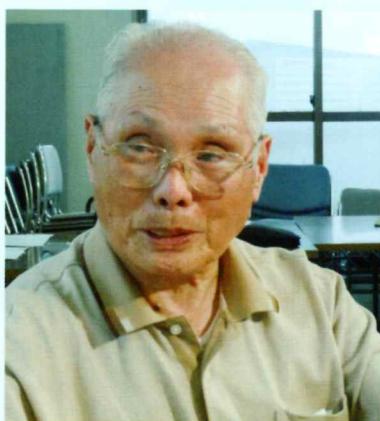
2010年6月のゼミ発足以来3年間、8回のゼミでの学習、ドイツ・ポーランド旅行を含め3回のフィールドワーク、11号までのニュース発行、ナスムの家で撮影したDVD「15のときは戻らない」の制作など、多彩な活動をしてきました。会員は総会時で405名になりました。今後のゼミの方針では、改憲に突き進む第2次安倍内閣の危険な動きを阻止することと、日本軍「慰安婦」問題の1日も早い解決を実現する運動を一体のものとして活動をしていくこと、そのために会員を増やす取り組みをさらに強化し、世話を追加(役職に変更なし)することなどを確認し、その趣旨のアピールも採択しました。

総会に先立って都留文科大学の笠原十九司教授の「歴史の転換点にあって、歴史から学ぶことの大切さ」と題する記念講演がありました。先生は、南京大虐殺の国際シンポジウムパネラーであり、現代中国史の研究者です。領土問題にかかわって現代の中間は「戦争前史から前夜に移行しつつある」と指摘。過去にも偶発的な事件で戦争に突入した例をあげ、安倍政権の危険性とともに警鐘をならしました。中国人は日本の捕虜を安全に帰国させるなど寛大だったが、日本の残虐行為を決して忘れてはいない、南京虐殺で日本兵は強姦女性を証拠隠滅のために殺害したが、ドイツ兵は強姦しても殺害はしなかったなど、日本人の人権意識のなさを指摘。今日の日本の状況をどう変えたらいいのかという質問に、「沈黙は犯罪」である、勇気をだして声をあげていかなければ変わらないと熱く語り、参加者をぐいぐいひきつけました。

(お詫び:録音の失敗でいつもの講演のテープを起こしたもののがお渡しできなくなりました。申し訳ありません)

哀悼

## 山西省の「慰安所」について証言した元日本兵・仙波藤吾さん逝去



日本軍の蛮行を証言してくださったときの仙波さん

元山西省残留部隊兵士・仙波藤吾さんは昨2012年11月27日逝去されました。90歳でした。戦後も捕虜収容所で約9年過ごし1954年に復員、戦後は自分の軍隊の体験を各所で語り、平和と民主主義を守る草の根の運動に参加しました。

仙波さんは浦和市での吉川春子演説会終了後、ご自分の軍隊経験について語り、雑誌に載った手記を郵送してくれ、その後この会の要請に応じて、所属していた軍の通信隊近くにあった「慰安所」と日本軍の蛮行について証言されました。吉川春子代表世話人と大森典子弁護士、宮崎信恵世話人(映画監督)、棚橋昌代事務局長が埼玉県に出向いて証言の映像をDVDに収め、第2回ゼミナール(2010年12月2日)で上映しました。

「山西省にも『慰安婦』はいた」「自分は通信兵で忙しく『慰安所』に行ったことはなかったが若い女性たちが週2回風呂に入りに来るので、その都度話をした。移動も軍と一緒にいた」、「八路軍の兵士への拷問や近隣住民への略奪などの蛮行に加わった」と声を詰まらせて証言、「戦争は人を変える」と述懐されました。

吉川が今年2月26日に会を代表して弔問しました。バス停まで迎えに出てくれた奥様は「戦場で上官に殴られたりした事は話したが『慰安所』については話した事はない」「最後まで病気と闘った」と話されました。勇気ある証言をして下さった仙波さんのご冥福をお祈りします。

&gt;

# 第1回総会において採択された声明文です。

&lt;

## アピール

昨年12月の総選挙で、改憲を公約に掲げた自民党が政権をとり、第2次安倍内閣が発足しました。新年1月早々に「教育再生実行会議」を発足させ、まず教育への政治介入を強力に押しすすめ、いじめや体罰がいま社会的に問題になっていることを口実に、道徳を教科化し、上からの規範意識を教え込み「評価」をするという「一方的な押しつけ」の提言を出しました。教育に関するあらゆる法制度の改革を意図し、教育を政治から独立させる原則を崩し、子どもの学ぶ権利を侵害し、時の政権が未来を担う子どもを利用する危険な動きをすすめています。特に安倍氏を中心に長い間すすめてきた「教科書への政治介入」をいまや中学校から高校にまでひろげ、「侵略戦争」や日本軍「慰安婦」問題などの歴史の事実を隠蔽し、「日本の歴史に誇りをもてる教科書の採択」を全国に広げようとしており、とても危険です。

安倍内閣のもとで、菅官房長官は記者会見(3月11日)で、「政府として憲法96条改正に全力を挙げて取り組みたい」と言明しました。自民党の改憲案は、憲法9条はじめ、国民主権、24条への「家族」条項の新設など古い価値観の復活、基本的人権の制限、地方自治の基本まで否定し改編するもので、「政府の行為によって再び戦争の惨禍がおこることのないように」にはじまる日本国憲法前文の根本理念、規定に反するものと言わざるをえません。第2次安倍政権は、日本をまさに「戦争のできる国」につくり変えることをめざしています。参院選の結果次第では、日本軍「慰安婦」問題での「河野談話」の改ざん・見直し、9条改憲への道をひらく憲法96条の改定をねらっており、改憲の危機は目の前に迫っています。

私たち『慰安婦』問題とジェンダー平等ゼミナールは、これまで、日本軍「慰安婦」問題の真の解決と、ジェンダー平等実現に向か、草の根からの運動と活動を展開し、まもなく3周年を迎えます。私たちは、今、総会の名において安倍首相と政府に対し、次のことを強く求めます。

日本軍「慰安婦」問題についての「河野談話」を堅持し、世界とアジア近隣諸国、内外の声にこたえ、高齢化されている被害女性のみなさんへの一日も早い真の謝罪と補償、教科書に「慰安婦」問題の事実を載せることを含む真の解決にむけて、韓国政府との協議にただちに入ること。

また、私たち『慰安婦』問題とジェンダー平等ゼミナールは、次のことを多くの人に呼びかけます。

平和・人権・「慰安婦」問題の解決と、これから日本とアジア・世界の平和に逆行する第2次安倍内閣の憲法改悪に断固反対し、改憲阻止に向けて手をつなぎ、共同の輪を広げていきましょう。

草の根からの学習、対話、運動をいちだんと強め、広げていきましょう。

2013年3月24日

「慰安婦」問題とジェンダー平等ゼミナール第1回総会

## 各地の取り組みから

### 京都府議会で 国へ「慰安婦」問題解決要望の意見書を採択 都道府県レベルで初!

3月26日、京都府議会の最終日に『慰安婦』問題の早期解決を求める意見書が30対26で採択されました。この種の意見書採択自治体数は40になり、都道府県レベルでは初めてです。共産党と公明党がそれぞれ意見書を出しましたが、共産党案が否決され、公明党案に民主党と共産党が賛成する形で可決されました。「意見書」は、「河野談話」や「アジア女性基金」で多くの課題は解決されていると考えられてきたが被害女性自身からは受け入れられず、新たな被害の声も出てきており、国際社会から指摘も続いているとして次の2点を国への要望事項としています。

(1) 旧日本軍による「慰安婦」被害者に対し、再度調査分析を行い、必要に応じ、謝罪の追加、理解ある補償及び名誉回復の措置を、誠実に取り急ぎ行う事。

(2) 「慰安婦」問題の真相解明を更に進め、同様の過ちを犯さないために、歴史の事実と教訓の次世代への継承に取り組む事。



採択を喜ぶひとびと

議場では自民党席から売国奴!等というヤジも飛んでいましたが、安倍内閣の河野談話見直し発言に国際的な批判が上がり、日本での市民の運動、国会の闘いによって封印せざるを得なくなっていたこの時期に、「慰安婦」問題解決を求める意見書が可決された意義は大変大きいと、京都で運動を進めてきた人々に称賛の声が上がっています。

## 青森・弘前で「慰安婦」問題の学習！

弘前・五十嵐吉美

「もっと『慰安婦』問題を学ぶ必要があるね！」—3月30日新婦人弘前支部の『ジェンダー』ってなに？という学習のつい参加者の感想です。

この学習会の前段は昨年の10月。新婦人創立50年を記念する弘前支部の行事で、弘前に移籍した私に講演の依頼があり、私は「日本軍『慰安婦』問題について話したい」と、90分の半分は新婦人の歴史やジェンダーについて、半分は『慰安婦』問題について講演。「もう遅い」ではなく、国際的に人道に対する犯罪に時効はないことを強調しました。

第2次安倍内閣、「河野談話」見直しなど『慰安婦』問題が話題になる中、ジェンダーもあわせて学習したいと、1歳の赤ちゃんをつれた若い方から、弘前市議まで座卓を囲んだ23人の学習会。「ジェンダーニュース」を配布し、3月24日の笠原講演や総会の報告もしました。

参加者から北津軽・五所川原母親大会（3月2日）の出来事が



ジェンダーニュースを手にみんなで学習

話されました。母親・事務局長は、学芸員が講師だったこともありチラシをもって教育委員会へ。チラシにプログラムのひとつ「慰安婦」問題紙芝居上演とあったのを見た教育長は「これを認める『慰安婦』を認めたことになる」と学芸員の出張扱いを取り消したというのです。講師は個人として参加してくれ、母親大会は予定通りでした。本州の北端で安倍内閣の“ご意向”にそう風潮が強まっています。

## ！ ますます凶暴化する在特会（在日の特権を許さない市民の会）の妨害

### 右翼と警察

大森典子 弁護士・副代表世話人

昨年9月23日に「日本軍慰安婦」問題関西ネットワークは、橋下大阪市長の「強制連行の証拠があるなら韓国側でだせ」との発言に抗議し、被害者自身が被害事実を語る集会を持ちました。ところが集会を妨害するために会場に入ろうとした「在日の特権を許さない市民の会」（略称 在特会）のメンバーが、主催者側から会場外に押し出された際、傷害を負ったとして警察に提出した被害届を基に、大阪府警察は半年もたった今年2月、主催者団体の事務所など数カ所を捜索したほか、逆に主催者側の4人の人を「被疑者」として任意出頭を求めた、ということがおきました。

この問題は集会の自由を守ろうとした側が逆に加害者として警察に取り調べられる、ということで、現在の右翼的な情勢を助長している権力の動向を端的に象徴しています。

東京では、この在特会のメンバーが在日の人々が多く住む東京大久保の街頭を「朝鮮人をぶっ殺す」などのプラカードを掲げてデモをし、警察はこれを黙認している、という状況も現れています。在特会のこのようなデモも確かに表現活動の範囲内にある限り、これを直ちに取り締まれ、ということには問題があります。しかし健全な社会の構成員としてこのような言論活動は許されない、という世論で彼らを包囲し孤立化させなければなりません。そのためにもマスコミがこのようなことは許されないという明確なメッセージを広く出すよう働きかけたいと思います。



ビデオ撮影をする在特会（愛知）



マイクの大音声で妨害（愛知）

### 愛知・「水曜行動」 在特会が妨害にきた！ 屈することなく行動を続けたい！

愛知・日本軍「慰安婦」問題をの解決を進める会事務局長  
副代表世話人 水野磯子

去る3月20日（祝日）、正午から始めた水曜宣伝行動に在特会がのぼり旗と大型マイクを持って、私たちの行動に押しかけてきました。その数は30名を超え、宣伝予定の30分以上前から待機して、愛知のみならず、岐阜、三重、東京方面の応援も。私たちも会場の準備の時から異常に気づきましたが、8mの大きな横断幕を広げ、緊張感漂う中で第一声をはじめました。10分もたたないうちに、在特会のマイクの妨害が始まりました。「『慰安婦』はねつ造だ」「こら、こじき、あほんだれ、ばかたれが…」汚い言葉でわめき散らす。

私たちは、「この妨害の中では、市民に迷惑がかかる、中止を」と、旗や横断幕を片付け始めると、「おまえら逃げるな。すぐ帰って行くようどうしようもないプライドでやるな！」「本当にそう思っているなら、ここでもっとやらんかい！マイク貸してやる！」と、ますます挑発的に妨害を続けてきました。

現在、名古屋は市長選挙。「南京事件はなかった」という河村は今回も立候補。友好都市なのに交流は1年以上停止したまま。藤沢候補は日本会議名古屋市会議員連盟会長、対するは革新の柴田たみお候補。3人の選挙戦に、負けられないの思いで活動！愛知・「すすめる会」の水曜行動は2010年1月から始めて、この3月で39回目。在特会の妨害は2~3名で時々。今回は30名を超えた。第二次安倍内閣誕生の反映か。自民党の日本国憲法の改正案を危惧する世論の高まり、現在の日本国憲法をなんとしても私たちは守らねばと、たたかいの正念場を迎えてます。妨害に屈することなく「すすめる会」は、水曜行動を果敢に重ねていく決意です。

# 第10回「慰安婦」問題とジェンダー平等ゼミナールのお知らせ

日 時：2013年6月30日（日） 13:00～16:30  
場 所：渋谷区女性センター・アイリス  
( 渋谷区文化総合センター大和田 8階 )

## 〉 テーマ

- 歴史を踏まえずして未来を語れるか  
— 江華島事件から「慰安婦」問題へ、そしていまの日本 —

## 〉 講師紹介

### ● 講 師：中塚 明 奈良女子大学名誉教授

経歴：1929年生まれ 日本近代史専攻。近代日本における朝鮮問題の重要性を自覚し、1960年代から日清戦争を始め近代の日朝関係の歴史を主に研究。1963年より奈良女子大学文学部に勤務、93年定年退職。この間朝鮮史研究会幹事、歴史科学協議会代表委員。日本学術會議会員などをつとめる。

著書：『日清戦争の研究』(青木書店) 『近代日本と朝鮮』(三省堂) 『近代日本の挑戦認識』(研文出版) 『歴史の偽造を正す』 『歴史家の仕事』 『これだけは知っておきたい日本と韓国の歴史』 『司馬遼太郎の歴史観』(高文研)ほか。



渋谷区女性センター・アイリス  
( 渋谷区文化総合センター大和田 8階 )

住 所：渋谷区桜丘町23-21

交 通：JR 渋谷駅西口徒歩5分  
上の地図参照

参加費：1000円(学生500円)

連絡先：090-4227-7478

日本国憲法や戦後の民主教育を嫌悪する安倍総理は「改憲」へしゃにむに進もうとしています。しかし日本の民主主義と平和を危機に陥れていません。

今こそ1945年8月15日とは何だったのか、すべての日本人が立ち返って考えてみる時です。

安倍総理は「慰安婦」についても強制連行を否定し、政府の責任を認めた「河野官房長官談話」や侵略戦争の反省を示した「村山談話」の改変を言明しています。こうした安倍総理に対して国際社会は厳しい批判の矢を向けています。

今回は、日本の近代史研究者である中塚明先生を講師に迎えて、日本の戦争責任について考えます。即ち「慰安婦」問題のようなことが、何故起きるのか、何故忘れられるのか、何故なかなか人々の念頭に上らないような構造に日本人が仕立てられているのか—総じて「事実は歴史家に任せて、政治家は未来志向で…」等と、日本の國の首相が公言して恥じない、この日本の國というものがどうしてこうなっているのか、その理由を考え、参加者の皆さんとじっくり討論したいと思います。どうぞご参加ください。



## 会計からのお願い

会計担当 池田靖子

### —2013年度会費のお願い—

新しい年度(2013年)に入りました。「慰安婦」とされた被害者のみなさんが高齢になり、人間の尊厳を回復するためにも、一刻も早く解決することが求められています。国際的に注目されているなかで、安倍政権がどのようにこの深刻な問題に向き合うか、世論を盛り上げていくことがますます重要になっています。

私たちの会が発足して4年目になり、賛同者が400名を超えて全国各地で多様な運動が広がっています。特にゼミナールに参加される男性が4割を超えており、ジェンダー平等を求める国民的な運動になっています。その運動を支える財政は、みなさんの年間1000円の会費です。ニュース作成・郵送などの経費は当然ながら、運動の広がりを支えるカンパなども大いに期待されます。振り込み用紙を入れますので、年1回ですから、お忘れなきようにどうぞよろしくお願いします。納入された方には、「領収&会員証はがき」を送ります。

なお、すでに納入してくださった方には振り込み用紙は入れません。事務的に慎重に行っていますが、間違いがある場合はご連絡ください。



### ゼミ制作DVD

### 「15のときは戻らない」

特別価格3500円(送料別)で販売しています。

お申し込みは当ゼミ、または、FAX03-3699-4407まで

# 歴史の転換点にあって、歴史から学ぶ事の大切さ

2013.3.24 笠原 十九司

## はじめに

### 1) 歴史の転換点とは

- ・日本の歴史の展開 現在からの歴史展開のいくつかのコースの可能性（選択肢）の中から日本政府・国民の「総意」の結果として一つのコースを歩むことになる
- ・歴史を学ぶ事の意味 過去の歴史から教訓を学び、過去のような過ちを繰り返さず、よりよい社会の構築を目指した歴史のコースを選択しようとする認識をもつこと
- ・歴史教育の目的 上記のような判断力、実践力を備えた国民、市民を育成すること一日本の学校教育において、ほとんどネグレクトされている「危うい日本国民の歴史意識」
- ・現在、日本社会が直面している歴史の転換点

転換点=turning point、転機、転換期、分岐点

#### ① 平和な東アジア共同体形成への道 or 東アジア世界から孤立、衰退への道

選択の鍵=日本の「過去の克服」の達成、東アジア被害諸国民との「和解」と信頼の回復、東アジア世界の地域文化意識と歴史認識の共有

#### ② 戦争前史から戦争前夜へ

戦争前史的状況：第一次安倍内閣（2006.9.26～2007.8.27）

日本国憲法改悪の「外堀が埋められる」 教育基本法の改悪、日本国憲法の改正手続きに関する法律（国民投票法）成立、防衛庁を防衛省へ昇格

第二次安倍内閣発足（2012.12.26）

Extreme Cabinet 日本国會議会議員懇談会メンバーが 19 人中 13 人、神道政治連盟国会議員懇談会が 14 人、憲法調査推進議員連盟（超党派の改憲議連）が 12 人、新憲法制定議員同盟が 8 人

憲法改悪派が与野党で衆議院議員の 2/3 自衛隊を国防軍へ、日米軍事同盟の強化と集団的自衛権の行使（アメリカの戦争に参戦）

マスメディアによる領土ナショナリズムの煽動

#### ・戦争前夜状況からは偶発事件、突発事件で容易に紛争、戦争へ 戦争回避は困難

盧溝橋事件（1937.7.7）の偶発から日中戦争へ 海軍の謀略・大山事件（1937.8.9）から第二次上海事変（8.13）、日中全面戦争へ

情報操作・誤認から先制攻撃 アメリカのベトナム戦争：現地軍の誤認報道であったトンキン湾事件（1964.8.2）への報復爆撃（北ベトナムへの爆撃）と全面介入（ロバート・マクナマラ『マクナマラ回顧録—ベトナムの悲劇と教訓』共同通信社、1997年）

アメリカのイラク戦争（ブッシュの対テロ戦争、予防戦争）：イラクの大量破壊兵器の誤認情報に基づきイラク戦争開始（2003.3.20）（コリン・パウエル『リーダーを目指す人の心得』飛鳥社、2012年、「消せない過ち—イラクの大量破壊兵器についての誤解」）  
尖閣諸島海域における日中海軍（保安隊）対峙状況と武力衝突の危険性

## 2) 歴史から学ぶことの大切さ

### 戦争の本質

- ①戦争はなぜ起こるか、誰が戦争を必要としているか
- ②戦争はどのようにして開始されるか
- ③国民はどのように（騙されて）戦争に動員されるか、または参加・加担するか

戦争ナショナリズム・領土ナショナリズム・報復ナショナリズム（アメリカの Remember  
○○）・脅威（被害）ナショナリズムの煽動と高揚

- ④戦争が国民（敵対国民も含め）の生命と生活に何をもたらすか
- ⑤戦争を根絶するにはどうしたらよいか

### 日本の侵略戦争の被害諸国民との「歴史対話」・「歴史和解」の実現、「過去の克服」のために

- ①日本軍は戦場と占領地で何を行ったのかという基本的歴史事実を知ること—戦争における戦闘行為とは敵国（相手国）の兵士・市民を殺害すること
- ②被害者、被害者の家族・親族、被害国民に対して誠実な Apology と Healing の思いを抱くこと
- ③戦後世代の日本国民が戦後責任を負っているという自己認識に立ち、侵略戦争における不正義と非人道的行為を反省・謝罪し、償いと贖いの証としての精神的・物質的「補償」を行うことにより、被害者・被害諸国民からの「赦し」と信頼を回復すること

## 1 日本軍が日中戦争（1931-1945）の戦場で何を行ったかを知ろうとしない

日本国民 何をされたかを忘れない中国国民

- ・日本国民の「無知の罪」「第二の罪」「セカンド・レイプ」  
日中戦争の戦場はすべて外国（中国大陸）であったので、一般の日本国民は日本兵が中國兵・市民を殺害する現場を目撃せず←沖縄戦場を目撃した沖縄県民との相違  
映画・テレビ・新聞・ラジオなどのメディアで報道しなければ、知ることはない。  
元兵士が加害証言をしなければ、虐殺の記憶を封印すれば、「しなかった」ことになる  
学校教育（特に歴史教育）で教えなければ、「侵略戦争でなかった」「虐殺はなかった」とさえ思い込むことに 「無知な日本国民」の再生産←ドイツ社会・国民との相違

- ・日本政府の公式見解として、侵略戦争を反省、謝罪している（村山内閣談話）が、加害・虐殺などの歴史事実認識はパブリック・メモリーとならず、「無知の罪」「第二の罪」
- ・日本国民の「戦後責任」として第一に求められるのは、日本軍兵士がどのように「中国国民に重大な損害を与えたか」、その歴史事実を知り、記憶すること。

「日中共同声明」（1972.9.29）「前文：日本側は、過去において日本国が戦争を通じて中国国民に重大な損害を与えたことについての責任を痛感し、深く反省する。」

「村山首相の戦後 50 年談話—閣議決定」（1995.8.15）「わが国は、遠くない過去の一時期、国策を誤り、戦争への道を歩んで国民を存亡の危機に陥れ、植民地支配と侵略によって、多くの国々、とりわけアジア諸国の人々に対して多大の損害と苦痛を与えました。私は、未来に誤ち無からしめんとするが故に、疑うべくもないこの歴史事実を謙虚に受け止め、ここにあらためて痛切な反省の意を表し、心からのお詫びの気持ちを表明いたします。また、この歴史がもたらした内外すべての犠牲者に深い哀悼の念を捧げます。」

- ・一般的中国人は「日本軍の殺害・虐殺・暴力について、日本人には言わないが忘れない」  
日中戦争（1931-1945 年）において、日本軍は中国のほぼ全土を攻撃、侵略、占領、統治（陸軍が侵攻できない地域は、海軍航空隊の爆撃 ex.重慶爆撃）

中国側の人的被害 中国軍の死傷 380 余万人 中国民衆の犠牲 2000 余万人

日本側の人的被害 日本軍・軍属の死者約 41 万人 日本人市民約 20 万人

#### 受け継がれる被害・犠牲の記憶

個人・家族・親族の記憶 族譜 清明節

地域の記憶 省・市・県・鎮・村単位の共産党地方党史委員会・政治協商会議による調査

記録の出版 虐殺記念碑 抗日烈士記念館・記念碑 愛国教育基地

国家・社会の記憶、公的記憶（パブリック・メモリー） 映画・テレビ・新聞・ラジオなどによる記憶の想起と形成 国家・社会・地域の記念行事（七・七、八・一三、九・一八、八・一五や南京大虐殺の一二・一三、重慶爆撃の五・三、五・四空襲など）

cf.日本において、各地の都市空襲、戦時困窮生活、広島・長崎、沖縄戦が個人の記憶、公的記憶として継承され、想起されているのと同じ

## 2 中国の正面戦場において日本軍は何を行ったのか（どのように中国兵・市民を殺したのか）

### 中国にあった二つの戦場

国民党と共産党は、中国革命をめぐって敵対した政治勢力であるが、1937 年 7 月 7 日の盧溝橋事件を契機に日本の中国全面侵略が開始されると、それまで革命をめぐって敵対し

ていた中国国民党と中国共产党が合作して抗日民族統一戦線を結成（第二次国共合作）、中国民衆も一致協力して日本の侵略に抵抗しようという抗日戦体制が築かれた。

### 1)正面戦場(国民党軍戦場)

中国政府の正規軍であった国民党軍と日本軍が飛行機や戦車、大砲などの近代兵器をつかい、陣地を構築するなどして大規模な戦闘

### 2)後方戦場（共产党軍戦場、敵後戦場、解放区戦場）

共产党勢力を中心とする八路軍・新四軍・抗日ゲリラ部隊が日本の占領地の後方を解放して抗日根拠地を築き、日本軍とゲリラ戦あるいは小規模の戦闘

#### 正面戦場で行われた虐殺行為の典型—南京事件の構造

笠原十九司『南京事件』岩波新書、1997年

笠原十九司『南京難民区の百日—虐殺を見た外国人』岩波現代文庫、2005年

地域=南京特別市の行政区 南京城區と近郊の6つの県 南京防衛軍の陣地

期間=1937年12月上旬から1938年3月28日中華民国維新政府の成立

#### 1)南京空襲の恐怖の日々 1937年8月15日の日本海軍機の渡洋爆撃に始まり、4ヶ月におよんだ南京空襲 夜間空襲の恐怖 富裕な市民から南京脱出、家族離散

50余回の南京空襲、延べ900余機 南京市民にとって2日間に1回の空襲 世界航空戦史の先駆例となった戦略爆撃

#### 2)南京近郊から始まった虐殺 波状進軍中の日本軍部隊による蛮行

農作物の略奪、家畜の殺害、農家の放火 村の成年男子の殺害 強姦・輪姦と殺害  
農民の拉致、連行、使役

#### 3)南京城區における虐殺 戦時国際法に反して、投降兵、敗残兵、捕虜を集団虐殺

城内大掃蕩作戦による民間人の殺害 敗残兵狩りによる成年男子の集団殺害  
「花姑娘」探しと強姦、輪姦 商店、倉庫、民家から食糧の略奪、略奪後の放火

#### 4)“陸の孤島・南京”で続いた暴力行為 市民登録と敗残兵狩り 女性の拉致、使役、強姦

日本軍「慰安婦」の連行と「慰安所」の増設

### 3 中国の後方戦場において日本軍は何を行ったのか（どのように中国兵・市民を殺したのか）

#### 日本軍の治安戦=三光作戦

笠原十九司『日本軍の治安戦—日中戦争の実相』（岩波書店、2010年）

- 日本軍の用語では、「燐滅掃蕩作戦」「殲滅掃蕩作戦」「剔抉掃蕩作戦」「治安掃蕩作戦」「治安肅正作戦」。「燐滅掃蕩」とは「燃えかすが残らないほど徹底的に滅ぼし、払い除く」

意味、「殲滅掃蕩」とは「皆殺しにして滅ぼし除く」意味、「剔抉掃蕩」とは「(抗日勢力を)えぐってほじくり出して払い除く」という意味

・治安戦=三光作戦 抗日根拠地・抗日ゲリラ地区にたいして徹底して殺戮、略奪、放火、破壊を行う作戦の意味、中国語の三光作戦「焼光」(焼き尽くし)、殺光(殺し尽くし)、搶光(奪いつくす)と同じ意味

・日中戦争当時の支那派遣軍と北支那方面軍の指揮官たちは、「剿共なくして治安維持は達成せられない」と考え、民衆をふくめた共産党勢力の殲滅

・共産党軍の八路軍が指導する解放区やゲリラ地区は「敵地区」「敵性地区」といっぽう的に断定、民衆もふくめて何をやってもかまわない、戦時国際法、国際人道法の適用など考慮する必要がない、共産主義という「悪」を根絶・絶滅するのに手段を選ぶ必要がない発想 軍事思想的「正当化」にもとづいて、本格的な作戦計画を立て、解放区やゲリラ地区の軍民にたいする大規模な皆殺し作戦を実行

・抗日根拠地・抗日ゲリラ地区では婦女も殺戮の対象とされ、「どうせ殺すのだから何をやってもかまわない」と強姦殺害、集団による輪姦殺害、さらには女性の身体を獵奇的に殺傷する残虐行為まで激化

#### 日本軍によるジェノサイド(集団殺戮)作戦

・百团大戦(1940年8月、9月)は、北支那方面軍の八路軍に対する認識を一変させ、日本軍の作戦方針を、国民政府軍から共産党軍が主敵に、軍隊を相手にすることから、抗日民衆を相手にする戦いに転換させる契機に

・百团大戦にたいする報復戦をきっかけに日本軍の村民にたいする虐殺、残虐事件は激増、強姦や強姦殺害などの婦女陵辱事件が激化、敵性地区すなわち抗日根拠地・抗日ゲリラ地区では殺人、放火、略奪が作戦としておこなわれ、どうせ殺害するのだからと強姦や性的残虐行為も黙認

・治安攪乱の主体は共産主義化した民衆なので、抗日根拠地、抗日ゲリラ地区の民衆を主要な敵とみなし、殺戮、略奪、放火、強姦など戦時国際法に違反する非人道的な行為を犯してもかまわないと、本格的な三光作戦の遂行

・日本軍の三光作戦は、日本軍の作戦として、1945年8月15日に日本の敗戦まで、長期にわたり組織的に実行、華北を中心とする広大な抗日根拠地・抗日ゲリラ地区の民衆にたいする組織的な虐殺作戦、すなわちジェノサイド(集団殺戮)作戦

#### おわりに

- 1) 東アジア地域の市民が東アジア近現代史に対する歴史認識を共有するために

第一段階=「何があったか」「どういう事件が発生したか」という「歴史事実の認識」の共有、歴史認識の共有の基礎　日中韓3国共通歴史教材委員会『未来をひらく歴史—東アジア3国の近現代史』(高文研、2005年)　東アジア市民社会の形成へ向けた歴史認識の共有の初步的第一歩

第二段階=日本や中国、韓国の自国史、国家史を超えた東アジア地域全体の歴史像の認識、人権・平和・自由などの人間としての普遍的価値観を共有する「東アジア平和共同体」の実現を目指す歴史観にもとづいた、東アジア歴史像の共有　日中韓3国共同歴史編纂委員会『新しい東アジアの近現代史』(上、下) (日本評論社、2012年)

## 2) 『新しい東アジアの近現代史』の日中韓3国における発行

上巻=日中韓3国の国際関係の変動を、世界史の流れと関連させて体系的にとらえ、東アジア全体の大きな流れを、国際関係の変動に重点をおいて叙述　中国を中心とする伝統的な国際秩序が崩れ、日本がイニシアチブを握っていく時期、日本の侵略が植民地支配と戦争につながり、これに対して韓国・中国で民族運動が起きる時期、第2次世界大戦後、東アジアに冷戦体制が形成され、やがてこれが変容・解体していく時期を念頭において、八章に分けて東アジア三国をめぐる国際関係史を通して

下巻=東アジアの国際関係の中で生きる民衆の生活と交流を主題別に扱い、民衆の具体的な姿を浮かびあがらせ、制度や文物が民衆生活にどのような影響を及ぼしたか、3国を比較しながら、また、3国民衆の交流に着目しながら叙述　日中韓3国間の民衆の生活の比較ならびに移動と交流の歴史を明らかにしようとした先駆的な試み

・市民の側からの「東アジア平和共同体」形成をめざした運動とそのための基盤となる東アジア市民の共通歴史認識の形成、さらにその前提として不可欠な日本政府と国民による日本の侵略戦争と植民地支配の「過去の克服」を達成するための世論形成をめざす活動

## 3) 「歴史に学べない、歴史を学ばない国家・国民は滅びる」

・日本、中国、韓国の自覚した東アジア市民による「東アジア平和共同体」形成をめざした努力と嘗々を阻害している元凶が日本政府（小泉純一郎政権、第一次・第二次安倍晋三政権、民主党野田佳彦政権など）

・安倍政権がこのまま続き、今年の夏の参議院選挙で自公民と日本維新の会、みんなの党などの右翼連合が多数議席を占めるようになれば、日本は東アジアから孤立し、長期的には衰退、没落の歴史を歩むことに

## 笠原先生の質問への回答

### 1 日本の反共主義はどうしてつくられたか？

国民の思想はつくられる。日本人の反共主義の最初の段階は治安維持法。1925年天皇制を維持するために「治安維持法」が作られた。日本人はイメージ、レッテルに弱い。「治安維持法」では、天皇制に反対する者は国賊で、反逆罪であるとそれがシブットされる。例えば、私達が「自虐派」であると言わると、“あ、そう。”と受け入れてしまうように。天皇制に反対したり、社会主義思想を持つと「アカ」とレッテルを貼る。天皇制に反対するのは共産党系の人たちで、「アカ」とよぶ。権力は、1部を弾圧し、多数の国民に恐怖を与え、沈黙させる。日本人は脅しに効く。脅されると黙る。共産主義の善悪ではなく、「アカ」とレッテルを貼られると迷惑になる。このような思想を持った者の親族などに連帶責任を負わせ、排除していく。この構造が日本人には効いた。戦後これを変えられる時が訪れた瞬間、1952年4月28日サンフランシスコ講和条約が結ばれ、アメリカが日本を反共陣営に組み込もうとした。レッドページといって、共産党員やその支持者などを公職から追放した。庶民の感覚では、「アカ」というと、社会的に不利益をこうむると思う。「アカ」がどういうものか考える前に、不利、迷惑というだけで、自分の態度を決めてしまう。“レッテル貼りに弱い”ということは、日本人が合理的な思考ができないことだ。事実に基づいて何が悪いのか考えることができない。その思考形式が改善されないままきている。それが日本が国民こぞって戦争責任を追及できなかつたことにも

なった。戦時中と冷戦時代のアカ攻撃がダブルで長期にわたってうけてしまった。それが今でも有効である。だから私もレッテルを貼られて、「笠原先生、アカなんですか」などと言われる。アカ攻撃が有効性をもっているのは、国民が考えないでレッテルを貼って迎合しているからだ。もっと国民が知的にならないと日本はあぶない。

日本人の本質にせまらない思考は江戸時代に始まる。集団的に管理させる5人組制度から戦時中は隣組制度をしく。家族、組など連帯で責任をとらせる。個人の思想、行動など

が一人の人権として認めるのではなく連帶で責任をとらせる。連帶的な思想弾圧が有効になる。戦時中の兵士も、捕虜になったり、離脱したりすると家族に迷惑がかかるので、これを恐れて何もできなかったという。幕末、戦時中、戦後と長い歴史の中で、日本人は自分の思考を持たず、体制に順応して、黙っていれば何とかなるとしてきた。今こそ、「沈黙は罪だ」ということをひろめていかなければいけないと思う。

### 2 日本の映画やコミックで加害の事実を描けないのはなぜか。

日本では、戦争の加害の事実を広めることに権力は大変敏感である。私は日本に言論と思想の自由はあるのかと思う。安倍晋三がNHKの元日本軍「慰安婦」の戦犯法廷の番組に介入したように、権力を行使して真実を知らせまいとする。さらに日本の場合は暴力団を使う。憲法で保障されている言論、出版の自由を抑圧する方法として右翼を使う。今は在特会だ。これは民主主義の危機であるという意識が日本では弱い。

ドイツではそのようなことがあれば、その倍数の人たちが、それを許さないという抗議デモが起きる。民主主義は黙っていては守れない。一方の意見に反対なら、カウンターでそれを押さえ込むことがなければ民主主義はあぶない。今、在特会や右翼がやりたいほうだいやっていて、それを抑える抗議運動が起こらないことは、日本では民主主義が弱いと思う。

2007年南京虐殺の映画はドイツでも中国でもできたが、日本では上映できない。右翼が映画館に押し寄せて、映画会社がびびって上映できなかつた。また、それをメディアが批判しない。

### 3 中国、韓国は嫌いだという学生にどういえばいいか

メディアが煽っているせいもあるが、結局「嫌いですか」と問いかける。例えば、「隣近所の人に『嫌い』といつてすむか？」と。結局つきあわなければならない。中国、韓国とも隣国で、経済的にもつきあわないと日本経済はもたない。環境問題でもつきあわなければならない。日本は中国と同じ文化圏だし、メディアに動かされずに自分の国をもっと知り、隣の国と対話で付き合っていかなければならない。自分が嫌いだといわれたらどうなのかともきいてみる。

### 4 5.15事件の犯人が恩赦でなぜ釈放されたか？

天皇制の問題で、天皇制とテロは密接な関係にある。在特会や右翼の暴力が許されているのは、彼らが天皇制護持を主張しているから。テロを温存する構造がある。5.15

事件で犬養毅を射殺した三上将校は紀元2600年(1940年)の恩赦で釈放された。一人一殺主義の血盟団という右翼の指導者もその時釈放された。治安維持法下では國体を維持するためには何をやってもいい。天皇制を掲げて暴力で言論抑圧をすることを許すという発想が今でも温存されている。

### 5 強制連行の文書はあるのか

沖縄の集団自決と同様に、「強制連行せよ」などという命令文書はないと思う。文書があるかないかということでなくて実態がどうであったかが問題。強姦せよなどという命令があるわけはない。しかし強姦を起している。命令があったかどうかではない。その行為があつたかどうか。その被害者があつたかどうかが大事。状況で判断する。否定派の論理をきちんと見極め批判していくことが大事。

### 6 教科書への政治的介入について

権力は教育に介入してくるが、それを見抜いていくことが必要。戦時中の教師の戦争責任を国民規模で批判しなかつたことが問題。その反省から教え子を再び戦場に送るなど日教組ができたが、権力の方が強い。先生方も、権力に対して従順と沈黙は犯罪だと自覚し、学校教育の場で頑張ってほしい。日本が滅びるとすれば、それは学校教育とメディアだ。市民の側から自覚的にそれを批判して変えようという動きができるないと、学校教育は権力にやられてしまう。